

# JAIF

国際結婚を考える会

Japan Association of Intercultural Families

会報誌第**12**号 [www.kokusaikazoku.com/](http://www.kokusaikazoku.com/)

[jaif@kokusaikazoku.com](mailto:jaif@kokusaikazoku.com)

**【特集】 『世界の動物たち』**



Page	CONTENTS	
	<b>【特集】 『世界の動物たち』</b>	
3	● <u>「ドイツ人とペット」</u>	トルン紀美子（会員）
6	● <u>甲州の動物たち</u>	スタウツエンバー ガー宮川康子（会員）
7	● <u>「私がマタギ婆となった経緯」</u>	マリク君代（会員）
10	● <u>「老柴と生きる」</u>	オロフソン優子 （会員）
13	● <u>保護猫活動への情熱</u>	コールマンひろみ （会員）
17	« コスタリカの朝ご飯 » <u>「ガジョピント」黒豆ご飯の作り方</u>	コールマンひろみ （会員）
19	<u>JAIFイベント報告</u>	イベント係
20	<u>編集後記   次号予告</u>	会報係

ドイツ滞在歴は今年で35年目。日本では犬を飼っていたこともあり私自身は犬好きですが、ドイツでは頻繁に日本に数週間里帰りする機会が多かったため、息子たちにペットが欲しいとせがまれたときも、ウサギを飼うのがやっとでした。ウサギは旅行の間はドイツの義父母に預かってもらうことができました。ウサギの寿命はその頃は3年から5年といわれていましたが、一匹は7年、もう一匹は12年もいてくれてよかったです。そういえば、いつぞやの会報の表紙に写真を掲載したこともありました。

30年ほど前に私がドイツに住み始めた頃印象に残ったことの一つに、ドイツでは田舎道でも野良犬や野良猫に出会わない、庭に放し飼いにされている犬はいるが、犬小屋はほとんど見ないし、庭先に鎖につながれている犬を見たことがない、ということでした。散歩していて突然柵の向こうに犬が出てきて吠えられることもありましたが、庭の柵から出られないようにしてあって「番犬注意」の表示があるのみです。

ドイツでは、鎖でつながれた犬がいると動物虐待として通報され罰金を科されたり、何度も違反すると犬を飼うことを禁止されたりするほど、動物を保護する法律がたくさんあります。私は日本では庭に放し飼いで小さめの中型犬を飼っていたことがありましたが、うちの中に入れるということは考えられませんでした。ドイツでは冬が厳しく長いせいと、住宅事情も家の床がタイル張りである程度土足でうちの中に入れるようなこともあるせいか、かなりの大型犬でも家の中で飼われていることにも驚きました。それから、ペットショップには犬猫は売られていません。ウサギやハムスター、熱帯魚、小鳥などは売られていますが、犬や猫を小さな檻に長時間入れておくことは動物虐待の観点から禁止されているので、犬猫が欲しい人はブリーダーから買うか、飼い主を探している動物を保護したければ町のティアハイム（動物保護施設）から料金を払って譲り受けることになります。

以前に、「子供と犬のしつけはドイツ人に任せろ」ということわざを聞いて、ドイツ人は子供や犬のしつけがうまいのだろうという先入観を持っていました。それはきっと戦前の権威主義的な学校教育やドイツの警察犬の育て方のイメージが残っていたから言われていたことなのでしょう。子育てに関しては、1970年代からの権威主義への抵抗もあって、体罰なんて絶対ダメというように180度変わってきています。さて、犬の育て方はどうかというと、ここにも動物愛護の観点から、厳しく体罰でしつける方法はよくないという考え方になっているようです。でもきちんとしつけることは重要と思っている飼い主は多く、犬の飼育を新しく始める人や、飼育に自信のない人、犬との相性に困っている人などが通えるHundeshule（犬の学校）の講習を受ける人は多いです。

トルン紀美子（会員）ドイツ在住

それにドイツではHundeflüsterer（フンデフルスタラー・犬の囁き人）と  
いって、犬の気持ちが分かる人というような意味の調教師の職業がとても  
持てはやされていて、有名な人はテレビ番組まで持っているほどです。

ドイツには犬税というのがあって、  
それぞれの居住市区町村に払うよう  
になっていますが、私の住む小さい  
街では一匹が年間84€・13000円（二  
匹なら96€・15000円、三匹以上は  
108€・17000円）ですが、大きな都  
市になると例えばケルンでは一匹  
156€・25000円と高くなるようです。  
コロナの後、獣医にかかる費用が20  
から30%値上げされ、「動物を飼う  
ことは贅沢品になってきた。」とド  
イツでも言われ始めました。



友人とその飼い犬①



友人とその飼い犬②

コロナ禍の時期に、日本でも家に新しく  
ペットを迎えた人も多くいたという報道を  
読みました。それはドイツでも同じでした。  
寂しいので軽い気持ちで動物を飼い始めて  
も、コロナ禍が終わり通常的生活状態に戻  
ると、やはり飼えないことに気づいた人は  
多いようで、今は動物保護施設で預かれて  
いる数かなり増えてきていて、もうこ  
れ以上は預かれないという施設がほとん  
どだそうです。基本的にドイツの保護施設で  
は、健康上どうしても安楽死させるしか  
ない状態の動物以外は殺処分はしないこ  
とになっているので、どこの施設もパンク  
状態でウェイティングリストに載せられ  
るだけになっているようです。

トルン紀美子（会員）ドイツ在住

そこでどうしても飼えなくなった人は、こっそり夜に来て施設の塀から中に投げ入れたり、塀に鎖でつないでいたり、ひどいときにはどこか遠くの場所に置き去りにしたりと、とても責任を持った飼い主の行動とは思えない報告もあるようです。コロナ禍以前もそうですが、軽い気持ちで犬猫を欲しいと思った人たちは、インターネットでより安価に買える犬猫を探すので、責任あるブリーダーからよりも、東欧圏から違法に運ばれたドイツの基準に合わない犬猫を買い求める傾向があるそうです。

結果的には最初から病気の犬猫を知らずに買うことになり医療費が払えない、でも東欧圏の人には安易な収入源になるので弱い個体を量産することになり、ドイツの施設がパンクする、という悪循環に陥っている気がします。

もう一つ、ドイツの動物事情で驚いたのは、馬が大好きな女の子が圧倒的に男の子よりも多いという点です。幼稚園や小学生の女の子用のおもちゃにはだんぜん馬のおもちゃが増えてきます。どんな小さな街にも乗馬クラブがあるので、女の子の習い事として乗馬はとても人気です。



うちの近くの散歩道の牧草地にいる馬

日本では乗馬は貴族のスポーツという印象でしたが、ドイツだと他のスポーツクラブに入るような気持ちで小さい子供がポニーの乗馬から始めることが多いようです。しかし自分よりも大きな動物を乗りこなすことが、なぜより女の子のほうに人気なのかは日本人の私にはいまだに不思議です。

ペット天国といわれるドイツですが、動物を飼うということはどんなに病気になっても一生面倒見る覚悟が大事で、自分が費やせる時間と予算をしっかりと考えてからでないと安易に判断できないのはどこの国も同じですね。

# 甲州の動物たち

スタウツェンバーガー宮川康子（会員）山梨県在住

米国籍の夫（2022年他界）と二人の娘と共にカリフォルニア州に暮らし、夫の退職を機に2015年家族で山梨県甲州市に移住。「国際結婚を考える会」には1985年ごろに加入、一時退会したものの再入会し現在に至っている。

私たち家族が米国から山梨県甲州市に移住してからかれこれ8年がたちます。山梨県と言えば葡萄、桃、柿などの果物やワインで有名です。きれいな空気と緑の自然に囲まれた住みやすい所です。私たち人間だけではなく動物たちにも暮らしやすい所なのでしょう、山や森の中には野生のシカ、イノシシ、クマなどの動物がいます。身近な所では近所のイヌ、ネコだけではなくタヌキやキジなども時々姿を現わします。最近ではフクロウ、コウモリも見かけると聞きました。昨年他界した夫は、毎日欠かさず散歩をして自然を楽しんでいました。

ある時、夫は家の近くを流れる重川（おもがわ）の石の上に可愛らしいカモがいるのを見つけました。たまたま持っていたカメラでカモの写真を撮り有頂天で家に帰って来たことを憶えています。

野生の動物は日中はめったに人前に姿を現わしません。しかし、近年の食料不足なのか、人家にクマが現れたとか、一冬で三頭のクマを仕留めたとか、果樹園を荒らされたとかの話をよく聞きます。最近では人間の果樹泥棒もいるのですよ。笑えないですよ。先日、夜、車を運転していたら道の脇に三頭のシカが立っているのを、一瞬ですが目にしました。私にとっては初めての事でした。シカと言えば甲州では印伝（いんでん）という革細工が有名です。鹿革に漆で柄付けした革製品のことです。400年の歴史があるということですが、印伝の名前の由来は「印度伝来」から来ているということです。

そうそう、忘れていました。我が家の裏庭でヘビを見かけたのです。ヘビは苦手な私は心臓が止まりそうでした。近所の人のお話では、赤い色のヘビは毒があるので気を付けるようにということでした。幸い赤い色ではなかったものの、しばらくは庭に出るのがはばかれた体験でした。

春にはうぐいすの鳴き声が快く感じられます。つばめがあちらこちらの家々の玄関で巣を作ります。地元の中央本線塩山駅（えんざんえき）では改札口周辺に巣を作り賑やかに飛び回っています。東京で生まれ育った私は、これらの動物たちを通して山梨の自然との一体感を常々感じます。これからも山梨の自然を壊すことなく、そこに住む動物たちの安全を祈らずにはられません。



ご主人が撮影されたカモ

# 「私がマタギ婆となった経緯」

マリク君代（会員）千葉県在住

35年以上会員で、今は東日本の世話人をしています。昨年インド人夫を看取り、一人娘は結婚してアメリカに住んでいます。  
趣味はマタギの他、語学学習、最近はリコーダーを始めました。  
民生委員など地域活動も負担のない範囲で勤んでいる70歳です。

千葉県南房総市に300坪ほどの家庭菜園を持ってから、もう25年以上通っています。里山の南斜面にあり周りには5軒ほど別荘として使われている家があり、内2軒ほどは定住していますが、それ以外は集落からも離れています。25年前は、狸やイタチ、ハクビシン、うさぎなどは時折目撃したり、野菜や果物が食べられる被害がある程度で、自然の中にお邪魔しているので仕方ないと受け入れていました。ところがここ15年ほどで変化がはっきりわかるようになりました。先日も千葉の市内で猪が暴れて捕獲員に噛み付いているのをテレビで見ました。猪の個体数が増えて被害も深刻になっています。畑を掘り返して作物を食べてしまったり、収穫前の水田を荒らしたりして、それでなくても農業人口が高齢化しているのに、この被害で耕作意欲をなくしてしまう農家さんも少なくありません。地元では獣害対策協議会なるものを立ち上げ、電気柵の設置や罠での捕獲を進めています。私は、その協議会の協力員に認定されています。

なぜ私がそこまでやるかを説明しないとなりません。我が庭ではもう野菜を栽培することを諦めています。猪が来て掘り返してしまうからです。猪は雑食性で他の植物の根なども掘り返しますし、石の下にいるミミズなども好んで食べます。春には筍なども食べます。一晩で大きな穴を掘られてしまいます。特に斜面が好きらしく道の脇の法面などは舗装の部分まで剥がしその下を掘り返します。10キロもあるかと思われる岩なども難なく投げ飛ばしてあります。初めは我慢していたものの、度重なる被害に怒りが湧き上がってきました。このままやられっぱなしは許せないと奮起して、罠の免許を取りました。



箱罠に掛かったイノシシ

私が師事している近所のお百姓さんは、年間100頭以上捕獲します。主に箱罠というものをあちこちに置いています。私が掛けるのは胴括り罠です。

# 「私がマタギ婆となった経緯」

マリク君代（会員）千葉県在住

主に箱罾というものをあちこちに置いていますが、私が掛けるのは胴括り罾です。カウボーイが使う投げ縄のような原理で、金属のワイヤーで輪を作り獣道の狭まった部分にかけ、そこから伸びたワイヤーをしっかりと木などに固定します。猪がそれに首から通過しようとするすると閉まる仕掛けになっています。私の場合は、年に1頭獲れる程度、通算8頭ぐらい捕獲しました。私は免許を持っていて地元の協力員になっているので許されますが、誰でも罾をかけていいということではありません。仕留めると親方に連絡します。

すでに死んでいる場合は、獣に通し番号を書いて、写真を撮り、尻尾を切り取って市に提出すると報奨金が出ます。まだ生きている場合は、その前に止め刺しの作業が入ります。状況によっては猟友会の人に頼む場合もありますし、動けないように括り付けて始末する場合があります。箱罾にかかった場合は電気ショックで処分します。師匠は解体した肉を冷凍しているのでいただいたことがありますが結構美味しいジビエです。



通し番号を付けた捕獲したイノシシ

猪の他にも、猿の数も増えました。群れでやってきて野菜や果物全般なんでも食べてしまいます。猿は罾にかからないので爆竹などで追い払いますがすぐに戻ってきます。猪は基本的に、人を見れば姿を消しますが、ボスザルなどは目が合うと向かってくるので怖いです。鹿も増えました。滅多に姿はみせませんが鳴き声が以前より頻繁に聞こえます。万葉集などにも詠まれ、夕方や夜半に聞こえるとなんとも物寂しいけれど心に沁みます。キョンは、体は鹿に似て美しいのですが足が鹿の半分ぐらいの長さで、その鳴き声たるはガーというか、ギャーというか人が絞め殺されているのではないかと思うような声です。以前、外房に動物園があってそこで飼われていたそうですが、閉園となり荒れ果て、逃げ出した個体が繁殖して増えたのだそうです。房総の気候があっていたのでしょう。先日は庭をのんびり横切って行く狸と目があってしまいました

# 「私がマタギ婆となった経緯」

マリク君代（会員）千葉県在住

我が家の脇に師匠の箱罾が架けてありますが、その餌は糠や雑穀やとうもろこしです。そこではなぜか猪がかかったことがないのですが、餌を狙って狸がたくさん来ます。狸を飼育しているようなものです。狸はノロマなのか箱罾にかかってしまいます。夜など静かになると扉が落ちる音が聞こえることがあって行ってみたら2頭かかっていた。師匠に連絡すると処分しに来るでもなく、朝には逃げているよ、とのことでした。朝見ると言った通りで中は空っぽでも扉は落ちたままなのです。箱罾の柵の間隔は狸の頭がかろうじて通る程度なので逃げ出してしまうのだそうです。たまに不運な狸がいて落ちる扉の通り抜けに失敗して首が挟まった状態で亡くなっているのを何回か見つけました。

このように人間と獣の凄絶な戦いが日夜繰り広げられているのですが、それさえなければ自然がいっぱいの長閑なところですよ。地元の農家も高齢化して、師匠ももう罾の免許を更新しないと断っています。若者よ、どうぞ田舎に移住して害獣たちの増加に歯止めをかけてください。獣と人と自然とのバランスというものはあると思うのですが。

# 「老柴と生きる」

オロフソン優子（会員）スウェーデン在住

1987年からスウェーデン在住。知財コンサル会社を4年前に退職し、現在はフリーランスの実務翻訳者として活動しています。息子二人はすでに成人。スウェーデン人の夫と二人暮らしです。大阪市出身。

我が家には、今年8月に16歳を迎えた柴犬（オス）がいます。名前はカザン（Kazan）。日本語の「火山」に由来しています。

スウェーデンのペットショップでは、日本のように犬猫は売っていないので、ブリーダーさんのところまで引き取りに行きます。カザンが生まれたのは、スウェーデン西南部ウルリスハム(Ulricehamn)という町でした。

スウェーデン・ケネルクラブのウェブサイトでは、ケネルクラブに登録されているブリーダーの繁殖状況がわかり、子犬を売り出しているブリーダーを見つけることができます。柴犬の登録ブリーダーは、当時、全国に23か所。私たちもこの方法でブリーダーさんを見つけました。最初は、母犬が産んだ4匹の子犬のうち、メスの1匹をもらうことになっていたのですが、ブリーダーさんが繁殖のためにメス犬を手元に置いておきたいという希望もあって、急遽オスの子犬を連れて帰ることになりました。それがカザンです。ちなみに、スウェーデンに初めて柴犬がやってきたのは1972年だとのこと。

日本犬は飼い主に忠実だということで柴犬を選んだのですが、子犬の頃にしつけ学校にも通ったものの、その後の飼い主（私達）のしつけ不足でしょうか、しっかりしつけできたのは、家の中で粗相をしないということだけ。子犬の頃は、噛み癖があったり、言うことを聞かなかったり。成犬になっても、他の雄犬と張り合うし、ドッグランなどで他の犬たちと一緒に遊ぶということもなかなかうまくいきませんでした。



いたずらっ子（2007年）



散歩中

# 「老柴と生きる」

オロフソン優子（会員）スウェーデン在住

そんなこともあって、去勢した方がいいのではないかと悩みましたが、結局7年前に、良性睾丸腫瘍のために去勢せざるをえなくなりました。スウェーデンでは、避妊去勢を受けている犬の割合は20%くらいだそうです。

そんなカザン、大した病気もせず、動物病院に行くこともなかったのですが、2年前に変形性関節症と診断され、抗炎症剤治療が始まりました。そして、ここ1年ほどは、白内障のため眼もほとんど見えず、家中での粗相も多くなりました。散歩中に走ることがなくなりました。家の前を人が通ると、必ず「ワンワン」と吠えていたのですが、吠えることを止めてしまいました。夜の徘徊も始まりました。いわゆる犬の「認知症」です。

数年前から家で爪を切ることが難しくなり、動物病院で切ってもらえるようになったのですが、最近は、動物病院に行くと、怯えてパニック症候に陥るので、鎮静剤を注射してから爪切りに臨みます。

そんな状況を間近で見ている獣医さんと、カザンの日常の生活ぶりを話しているうちに出てきたキーワードがQOL、いわゆるペットの「クオリティ・オブ・ライフ（生活の質）」です。「痛みで外に出るのを嫌がったり、動けなくなったり、食事を受け付けなくなったり、どうにもこうにも行かなくなる前に、賢明な判断をして下さいね」と言われています。犬は外に出て自由に走ったり、餌をパクパク食べたりすることが本能的な喜び。これらのことができなくなったら「犬らしい生活」が送れなくなっているということでしょう。



階段を上る

日本では寝たきりになったシニア老犬を介護する飼い主も珍しくはないと聞いていますが、死生観の違いもあってでしょうが、ここでは、「生活の質」を基準に考え、獣医のアドバイスを受けた上で最終的な判断は飼い主に任されているようです。

どうやら今年中にも難しい判断をしなければならないようです。

.....

# 「老柴と生きる」

オロフソン優子（会員）スウェーデン在住

さて実は、ここまでの文章は9月半ば頃までに、ある程度の下書きを書いていた。ですが、9月末のある日、突然カザンの状態が悪化し、後ろ足が全く立たなくなりました。床にへしゃがって「ウォーン、ウォーン」と悲鳴を上げる。立ち上がるのを助けてやっても、1、2歩歩くとまた立てなくなって、、その繰り返しでした。

いつか来ると覚悟していましたが、思いのほか、その時が早くやってきました。家族全員で話し合い、結論を出しました。これ以上、痛みと闘いながら、苦しく悲しい生き方をさせたくない。

日本では、仏教思想がゆえに、「自然の赴くままに」、つまり「自然死」というものに重きを置いているのかもしれませんが、私達は「安らかに眠らせてあげる」という選択をしました。

我が家に引き取られ、家族の一員となって16年。ポツカリと穴が空いた中ではありますが、今は、いろいろな思い出を残してくれたカザンに感謝の気持ちで一杯です。

そして、虹の橋を渡ったカザンは、きっと楽園で元気に生き生きと走り回っていることと思います。



最後の夜（2023年）

アメリカ人の夫と92歳の母、息子から預かっているトイプードル、そして5匹の猫と暮らしています。5匹のうち4匹は今回インタビューに答えてくれた川又さんから譲り受けました。

## 一般社団法人にゃんこの大冒険 代表 川又ジュリエットさん インタビュー2023年10月9日



我が家の猫ちゃんたち

ひろみ：川又さんからのご縁で猫ちゃん達との楽しい暮らしが出来ています。その節はありがとうございました。今日はまず川又さんが保護猫活動を始めるきっかけになったことから教えてください。

川又さん：10年ほど前、勤めていた会社に3匹の子犬が捨てられていたんです。通りがかりの人が引き取ってくれて、後日その3匹は可愛い名前が付けられて里親に大切にされているという記事を見て心から良かったと思ったんです。こういう保護の方法があるんだということを知りました。

ひろみ：現在はペットショップを併設している大型ホームセンター店内にて、猫の譲渡会を定期的に行っていますが、どのような経緯でここまで続けられたのですか？

川又さん：はじめは近くの動物保護団体に入り、お手伝いしていましたが、だんだん猫の数が増えてきて、金銭のやり取りもきちんとしたかったので自分で独立して一般社団法人を始めました。

私自身が子供の時に猫を飼いたかったのに事情で飼えなかったことも、活動を後押ししていたかなと思います。

# 保護猫活動への情熱

コールマンひろみ（会員）茨城県在住

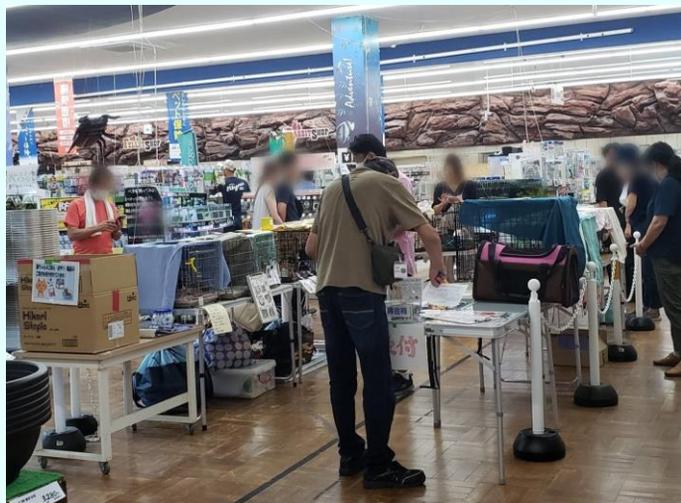
ひろみ：保護猫ちゃんたちはどういう経緯で集まるのですか？

川又さん：TNRという活動があります。TはTrap捕獲して、NはNeuter不妊手術をしてRはReturn猫を元の場所に戻す。（詳しくはこちらをご覧ください。公益財団法人どうぶつ基金）この活動を通して地域にいる野良猫の数を減らす努力をしているんですが、いざ保護してみるとすでにおなかに赤ちゃんがいたり、子猫を連れた母親だったりするケースもあります。そんな時、子猫の里親を探そうということになるんです。現在25匹の猫が里親募集中でお世話しています。

ひろみ：そうなんですね。子猫を引き取ってから、病院に連れて行くんですか？

川又さん：まず、病院で病気が無いかウイルスチェックをします。健康な猫ばかりではないので医療費がかかる場合もあります。初期医療として予防接種をしたり体内外の駆虫の処置をしてもらいます。また他にもエサ代をはじめ様々な費用が掛かってきます。ですので、里親になってくれる方に経済的な支援もお願いしなければなりません。

ひろみ：写真を見せていただいて、譲渡会にはたくさんの方が来ているようですね。でも、誰でも猫の里親になれるわけではないんですよね？どんな条件がありますか？



ホームセンター内での  
保護猫の譲渡会の様子1



ホームセンター内での  
保護猫の譲渡会の様子2

# 保護猫活動への情熱

コールマンひろみ（会員）茨城県在住

川又さん： 今まで譲渡会を開いてきた経験の中で、様々な問題にも直面しました。新しい家建てたので猫は飼えなくなったとか、恋人が出来たので要らなくなったとか、その時に私に連絡をして戻してくれればいいけれど、捨てられてしまったケースもありました。ですから譲渡の時のチェックも厳しくならざるを得ず、契約書も2ページに増えました。

ひろみ： 例えばどんな内容ですか？

川又さん： 里親になる条件としては、

◎ペット可の住居であるか

◎成猫なら大丈夫ですが子猫の譲渡の場合、里親は60歳未満が条件です。

◎完全室内飼い

◎家族全員の承諾

◎未婚のカップルは基本的には対象外になる（別れたときに捨てられるケースが多かった）

◎医療費の負担の確認

◎定期的な猫の写真と報告

ご自宅に訪問して環境を確認してからの譲渡になります。

ひろみ： なるほど、色々な経験の上で猫ちゃんと里親の環境が整備されてきたということですね。最後に、お聞きしたいのですが、こんなにご苦労の多い保護猫活動への情熱の原動力はどこから来るんですか？

川又さん： 一番は里親さん達から届く猫の元気な写真ですね。この子達が幸せな暮らしをしていることが一番嬉しいし、原動力になっています。

ひろみ： 貴重なお話をありがとうございました。



保護猫を抱く川又さん

# 保護猫活動への情熱

コールマンひろみ（会員）茨城県在住

インタビュー後記：子供の数よりペットの数の方が多い日本。

総務省の2022年4月1日発表での15歳未満人口は1435万人で、犬猫の飼育頭数合計は1588万頭。（一般社団法人ペットフード協会調べ）

私が子供の時に街角でよく見かけた野良犬や野良猫は今はほとんど見かけない。動物愛護の精神は広がっていると思うが、まだまだ草の根的にボランティアの有志が頑張っている保護猫の活動ということ。最後に川又さんからホームページを見て頂き、少しでも支援していただければ嬉しいということでした。

一般社団法人 にゃんこの大冒険 <http://witch912.cocolog-nifty.com/>

寄付はこちらへ

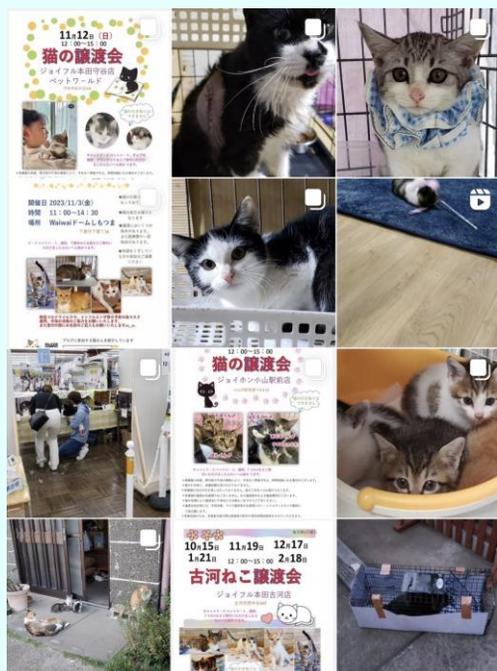
ゆうちょ銀行10670 43990501

他銀行から 〇六八 普通預金4399050

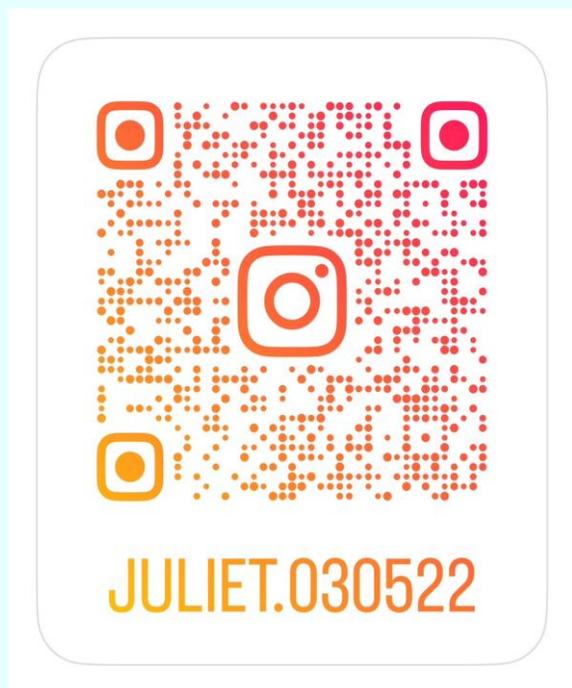
シャ) ニャンコノダイボウケン

インスタグラム にゃんこの大冒険 [lalasenamiyu@gmail.com](mailto:lalasenamiyu@gmail.com)

<https://www.instagram.com/juliet.030522/>



にゃんこ大冒険のインスタ



にゃんこ大冒険のインスタQR

## 《 コスタリカの朝ごはん 》

### 「ガジョピント」黒豆ご飯の作り方

コールマンひろみ（会員）茨城県在住

アメリカ人の夫と92歳の私の母、5匹の猫と最近は息子から預かっているトイプードルと生活しています。最近夢中になっているのはガーデニング。暑かった今年の夏に朝から庭で作業をして7キロの減量に成功。

コスタリカから2年前に帰国した知人に教えてもらったレシピです。日本人にも食べやすく簡単に作れる地元の朝ごはんだそうです。ただし、リサノ・サルサソースLizano Salsa Sauceが必需品です。これは、日本人の醤油のようなもので、必ずテーブルの上に置いてあって、好みでかけて食べるそうです。ネットで調べてみましたが、アメリカ経由で入手可能のようですが、お近くに輸入品のお店があったら探してみてください。



<材料> 4~5人分  
レッドキドニー豆（缶詰め）2個  
玉ネギ大 1個  
赤パプリカ 1個  
パクチー 1株  
ニンニク 2かけ  
コンソメキューブ 2個  
炊いたご飯 2合分  
リサノ・サルサソース

#### <作り方>

- ①赤パプリカ、玉ねぎ、パクチー、ニンニクはそれぞれ大きめのみじん切りにします。
- ②フライパンに油をひき、パプリカと玉ねぎを入れてしんなりするまで炒めます。
- ③豆を入れて少しつぶしながら一緒に混ぜながら炒めます。
- ④コンソメを入れます。
- ⑤パクチーとニンニクを入れ、焦がさないようにとろとろになるまで煮詰めます。
- ⑥ご飯を入れて色が均一になるまで混ぜます。
- ⑦リサノ・サルサソースを30ccほど混ぜて、味を見ながら塩を振ります。出来上がりです。

## 《 コスタリカの朝ごはん 》

# 「ガジョピント」黒豆ご飯の作り方

コールマンひろみ（会員）茨城県在住

### コスタリカ共和国 プチ紹介



#### ロスアンヘレス大聖堂 カルタゴ州

毎年8月2日の巡礼の日には近隣諸国からたくさんの巡礼者が訪れます。400年ほど前に黒いマリア像がこの地で発見されマリア像を移動しても元の場所に戻ってしまうことから、この地に教会を立てたそうです。黒いマリア像は奇跡を起こすと言われていています。



サンホセのホテルから眺めた風景。虹が出ていました。



#### グアナカステ州の美しい海岸

# ★2023年8月～11月のJAIFイベントを振り返る イベント係

## ◎8月12日（土）オンライン 国籍はく奪条項違憲訴訟（国籍法11条1項）清水裕子さん講演

参加者15名

大阪地裁で国籍はく奪条項違憲訴訟を起こしておられる清水裕子さんに、貴重なお話を頂きました。

清水さんは国際研究員として米国に留学後、カナダでお仕事をされてカナダ国籍を取得されると同時に日本国籍も喪失されました。20年ほど在住なさった後、お父様がお病気になることからご帰国を決めたのですが、日本での在留許可取得のため国籍喪失届提出の過程で、様々な問題に直面されました。

また講演でご指摘されていたことは、日本社会の深刻な人口減少問題についてでした。国籍法11条1項を除去し、外国籍を取得した日本人の日本国籍を自動喪失させないことで、数多くのメリットがあることも期待されるというお話もなさいました。

## ◎9月29日（土）第10回海外会員オンラインお茶会（親睦会）

参加者13名 アメリカ本土、ハワイ、ドイツ、スウェーデン、日本

話し合いのテーマは「生活の拠点を複数持つことについて」と「この夏の思い出」

お茶会の中でライフタイムアンケートも実施され、日本に実家を持って第2の本拠地としている方も多かったです。複数拠点を持つことのメリットとデメリットについてや、実際二つの国を行き来しているメンバーからも貴重な情報を沢山聞くことが出来て、有意義な時間になりました。

夏の思い出については、それぞれ日本に一時帰国したり、スキューバダイビングを楽しんだり、車を買ったお話やハワイのワイキキの人出が少なかったことなどを楽しく報告してもらいました。

## ◎10月29日（日）西日本 親睦会

参加者7名。晴天の秋晴れの京都で親睦会を持ちました。

残念ながら、新入会員の4人の方々はお仕事や行事でそれぞれにお忙しく、ぎりぎりまで返事を待ちましたが3人の方は不参加となりました。子育て中や行事参加、お仕事があったりと、リタイア組とは違って時間のやりくりを追われる日々を過ごされているようで、次回はまずこの4人の方々に調整さんで回答を頂いてから日程を決めようと話し合いました。

ですが、嬉しいことに、スウェーデンから大阪に里帰り中のオロフソン優子さんがイベント欄を見て参加してくださったのです。スウェーデンの暮らしのお話も伺い、おしゃべりしながら京風定食を食べたあと、蒔田さんの案内で下鴨神社の糺の森で開催中のマーケットに出かけました。年に一度の開催とかで、沿道に沢山の珍しいお店が色々とお店したり、ダンスありで、楽しいひと時を過ごしました。

## ◎11月25日（土）東日本 昼食懇親会 築地すしざんまい新館

参加者14名

ドイツから帰国中のメンバーを囲んで、ちょうど日本滞在中の他のメンバーのご家族も参加し賑やかな懇親会になりました。魚河岸直通の新鮮なお寿司を味わいながら自己紹介から始まり、最近の様子など尽きないお話に花が咲きました。今年の春に入会された新メンバーもいらっしや、仲間の輪が広がることを嬉しく思いました。

食事会の後、近くの浜離宮恩賜庭園まで足を延ばし、秋の紅葉と雪吊りの掛かり始めた園内の散策を楽しみました。

年末に里帰りする予定の海外メンバーがいるので、次回は新年会を計画したいと思いません。

寄稿してくださった皆様ありがとうございました。お陰様で無事第12号を発行することが出来ました。今年も残すところあと1か月になりました。

今年を振り返りながら異常気象や紛争など暗いニュースも多かったですが、ぜひ楽しいホリデーシーズンをお過ごしください。来年が皆様にとって素晴らしい一年でありますように。

コールマンひろみ

2023年も終わりが近づいてきましたね。皆さんにとってどんな1年だったでしょうか。僕の中での今年一番の思い出は、家系図を作ったことです。両家ともに、江戸時代まで遡ることができ、自分の命は先祖によって受け継がれてきたのだと改めて感じました。2024年も素敵な1年にしようと思います！

三好 郁也

次回予告 | 会報誌第13号 (2024年6月30日発行予定)

特集：●『国際家族の老後と相続②』



会の歴史も40年を超え、会員も外国人配偶者も経験と共に年も重ねてきています。海外にお住いの会員も日本にお住まいの会員も夫婦のどちらかは外国での老後を迎えることとなります。

また、遠い外国に住む親の介護の問題に直面している会員もいらっしゃることでしょう。

老後をどこで、どうやって過ごすのか、国際家族ならではの悩みや心配事も沢山あると思います。ご自分が経験された介護のことや、配偶者をなくされた時の煩雑な手続きや相続のことなど、貴重な経験を共有していただけませんか？

若いメンバーにとっても有意義な知識になると思います。

会報誌第5号でも取り上げたテーマですが今回は第2回目として企画します。匿名でも結構ですので、たくさんの方からの寄稿をお待ちしております。

会報誌係 [edit@kokuksaikazoku.com](mailto:edit@kokuksaikazoku.com) までご連絡ください。

締め切りは2024年4月30日の予定です。

どうぞよろしく願いいたします。

コールマンひろみ、三好郁也